



「これから問われる力」

私は将棋をするのが大好きで、将棋仲間とよく対局します。趣味に年齢は関係がないので、若い人と対局することもあれば、私よりも上の人と対戦することもあります。先日、将棋仲間の30代の若い人と話が弾みました。彼は、化粧品会社の開発部で仕事をしています。理論的で理科系の人だなという感じがします。「水野さんは、何の仕事をしているのですか」と聞かれたので「教員です」と答えると「これからの教育はプレゼンする力や思考する力が大事だと思います。ただ知識を覚えているだけでは企業の中では力を発揮することはできません」と力説してくれました。「私も、学生の頃、塾でテストで点を取るテクニックなどを学んで、一生懸命になっていましたが、企業で求められる力は、想像力だったり、表現する力だったりして困惑しました。ただ知識を覚えてもそれだけでは何も生まれません。開発する力が大切です。そのためには、考える授業や考えをぶつけ合う授業が必要だと思います」と話してくれました。

今、取り組んでいる合唱発表会も、どうすれば良い合唱ができるのかと考え、それを実践していくような力こそが大切なのだと思います。ベートーベンが作った曲はなにか?などという知識より、どのような時代背景でその曲を作ることになったのか?と推測したり分析したりする力が求められているということです。

これからの力は、教科の授業の時間だけで問われているのではなく、日常の生活の中で起きるさまざまな出来事をどう対応していくか考えていく中でどんどん蓄積していくのだと思います。想像力、問題解決能力、分析力など、知識を覚えることよりもそれらの力が求められているそうです。将棋をさしながら学校も変わっていかないといけないなと思いました。

